



特別講座のお知らせ

無料

事前予約制



ユーラシアにおける 多様性と交流

特別講座「ユーラシアにおける多様性と交流」は
市民向け無料開放講座です。
ご自由にご参加ください。



！
モンゴルは
どのような交流を
のぞんでいるか

！
韓国
コンテンツが
なぜ国際的に
展開しているのか

！
中国は
どのような
海外戦略を
とっているか



2026.9 / 25日 → 2027.1 / 8日

毎週金曜日
14時40分から16時10分
※講義一覧は裏面をご覧ください。

モンゴルはどのような交流をのぞんでいるか、なぜ韓国コンテンツが国際的に展開しているのか、中国はどのような海外戦略をとっているかなど、まさにビジネスや外交の現場にいる方たちが日本語で講義します。7回目、10～12回目は英語による講義です。通訳付きなので安心です。オックスフォード大学やケンブリッジ大学など海外の大学教授たちによる講義を日本にしながら、武雄アジア大学で体験することができます。ぜひお越しください。

中東やウクライナに端を発する戦争状態が長引き、平和が脅かされた状態が続く結果、陸路で地域をつなぐユーラシアがいま脚光を浴びています。中国の「一帯一路」政策も、この地勢学的位置を積極的に活用した政策にほかなりません。

こうした現実世界での重要性にも関わらず、日本において、ユーラシアに対する関心は一般に高くはないと言えるでしょう。そこで、本特別講座では、

1) 日本と大いに関係する歴史的な交流があった、2) 交流の結果として多様性が展開している、3) 現代の新たな交流によって文化の共有も進んでいる、

という3つの観点から、ユーラシアについて15回シリーズでご紹介します。ご都合やご関心に合わせて、自由にご参加ください。

第1回目 9/25(金)	小長谷有紀(武雄アジア大学学長) 1979年に日本人女性として初めてモンゴルに留学し、以来、モンゴル研究に邁進。 2023年より国際モンゴル学会会長。2025年文化功労者として顕彰された。	序論 13世紀にモンゴル遊牧民がユーラシアの東西をつないで世界史を変えて以来、今日までのユーラシアの位置付から、本講座の趣旨を説明する。
第2回目 10/2(金)	鄭俊坤／チョン・ジュンゴン(ユーラシア財団首席研究員) 政治学博士。ユーラシアの地域統合に関する研究や講義を国内外の多数の大学で実施している。著書に『アジアの地域統合を考える―戦争をさけるために―』など。	ユーラシア共同体という概念 20世紀にはEU(欧州連合)やASEAN(東南アジア諸国連合)などの地域統合が生まれ、経済的な連携機能を果たしてきた。これからは、どのような連携が必要かを考察する。
第3回目 10/9(金)	バンズラクチ・バヤルサイハン(駐日モンゴル特命全権大使) 1994年に日本国政府の奨学生としてモンゴル科学技術大学から日本へ留学し、日本での企業経験を経て、2023年9月大使就任。日本各地を訪問し、経済や学術の連携に努めている。	モンゴルから日本に期待する役割 ロシアと中国という2大国に挟まれているモンゴルにとって、日本は「第3の隣国」であり、とりわけ若者にとって人気の留学先であることなどに基き、外交政策を紹介する。
第4回目 10/16(金)	井手誠之輔(武雄アジア大学副学長) 東京国立文化財研究所での勤務を経て、2004年より九州大学文学部教授。専門は東アジア絵画史。『宋元仏画展』など国内外の美術展で企画や解説を担当している。	ユーラシアの仏教美術 大陸や半島由来の仏画を通して、東アジア地域における文化交流を具体的にたどることができる。そうした時空の旅を今回はできるだけ中央アジアまで広げること挑戦する。
第5回目 10/23(金)	寺村裕史(国立民族学博物館准教授) 文学博士(考古学)。同志社大学文化情報学部、総合地球環境学研究所、国際日本文化研究センターでの研究員を経て、2015年4月より現職。	ユーラシアにおける交易の変遷 国立民族学博物館で2026年春に開催された特別展「シルクロードの商人(あきんど) 語り―サマルカンドの遺跡とユーラシア交流―」を中心に、シルクロードの実態を紹介する。
第6回目 10/30(金)	庄田慎矢(奈良文化財研究所・国際遺跡研究室室長) 文学博士(考古学)。専門は、遺跡や遺物に残された生体分子(脂質やDNA、タンパク質など)から過去の人間活動を解き明かす、考古生化学(Biomolecular Archaeology)。	ユーラシアにおける穀類の移動 雑穀(キビ、アワ、ヒエ)がいつ、どのように移動し、日本に伝わってきたかについて、遺跡から出土される人骨の歯石を分析する等、最新の科学的知見に基づいて紹介する。
第7回目 11/6(金) 英語講義(通訳付)	ソムファイ・ダーヴィド(ハンガリー科学アカデミー研究員) 中央アジアおよびシベリアにおけるチュルク系・モンゴル系諸民族の民俗学、言語学の専門家。中国、カザフスタン、キルギス、モンゴル、シベリアなどで広範囲に調査を行っている。	ユーラシアにおける諸言語の多様性と共通性 カザフ語、キルギス語、ウズベク語、トルクメン語、カラカルバク語、バシキール語、タタール語、タジク語などについて、講師が実際にしゃべって、その違いを聞き分けてみる。
第8回目 11/13(金)	佐藤洋治(ユーラシア財団理事長) 早稲田大学を卒業後、ビジネスに成功し、2003年にNPOを創設。2009年より一般財団法人を運営し、これまで国内外100以上の大学で地域連携に関する特別講座を支援している。	ユーラシアにおける交流実践 「ユーラシア財団」設立の理念のもとで、どのような国際交流が行われてきたかについて具体的な事例で紹介する。
第9回目 11/20(金)	李愛娥娥／リ・エリア(早稲田大学研究員) 立命館大学に留学し、京都大学で博士号(人間・環境学)を取得後、東京大学、早稲田大学等で研究に従事。2003年に大平正芳記念賞、2015年に大同生命地域研究奨励賞を受賞。	ユーラシアにおけるコリアン・ディアスポラ スターリン時代にカザフスタンへ強制移住させられた朝鮮人が、韓国企業の海外進出を促進している実情を解説する。また北朝鮮労働者は沿海州等に派遣されている。
第10回目 11/27(金) 英語講義(通訳付)	スタンバーク・トロイ(オックスフォード大学シニア研究員) 人文地理学者。乾燥地の地理学や気候変動の専門家。近年はとりわけ、モンゴルと中央アジアのゴビ砂漠で、遊牧社会の持続可能性と災害へのレジリエンスに関して研究してきた。	ユーラシアにおけるオアシス社会 気候変動や災害に対応できる社会の持続性について研究するためには、地理学をはじめとする諸科学が協力し、統合的に研究しなければならないことを、具体的な経験で示す。
第11回目 12/4(金) 英語講義(通訳付)	オラディン・ボラグ(ケンブリッジ大学教授) 社会人類学者。中国内モンゴル自治区オルドス出身、ニューヨーク市立大学での勤務を経て現職。中国とモンゴルやチベットの政治的な関係について歴史的に考察してきた。著者多数。	東からユーラシアを再考する:文化遺産をめぐる共有と政治 モンゴル帝国の出現によってユーラシア全域は「バクス・モンゴリカ(モンゴルの平和)」と呼ばれる時代を迎えた。その政治的枠組みを文化的な遺産として捉える試みを示す。
第12回目 12/11(金) 英語講義(通訳付)	マルキナ・シャルロッテ(フランス国立東洋言語文化学院准教授) 社会人類学者。INALCO(フランス国立東洋言語文化学院)でモンゴル語を教える傍ら、モンゴルでさまざまな現地調査に従事。論文多数。異文化理解のための絵本も執筆。	ユーラシアにおけるさまざまな牧畜 同じモンゴル高原でも、かつてソ連の傘下にあったブリヤート共和国と、モンゴル国との放牧の仕方は違っているなど、歴史や制度によって違いがあることを紹介する。
第13回目 12/18(金)	朝倉敏夫(立命館大学名誉教授・国立民族学博物館名誉教授) 韓国に関する文化人類学者。とりわけ食文化に関する第一人者として、NHK番組「宮廷女官チャングムの誓い」などの監修に携わる。2013年に大韓民国王冠文化勲章を受章。	ユーラシアに展開するコリアン食 多様なコリアン食が、そこに住む人々、出稼ぎ労働者の食堂経営、テレビドラマの普及などさまざまな要因から、世界に広がっている実態を紹介する。
第14回目 12/25(金)	朴英恵／パク・ヨンヘ(駐日韓国文化院院長) 慶應義塾大学へ留学し、駐大阪韓国文化院長などを経て、2025年5月に駐日韓国文化院の院長に就任。KポップやKビューティの日本での国際展開や文化交流を担っている。	ユーラシアに展開するコリアン・コンテンツ 韓国のソフトパワーとして世界を席巻しているKpopのほか、e-スポーツや化粧品など、多様なコンテンツが展開する背景に、どのような国際戦略があるかを解説する。
第15回目 1/8(金)	高橋孝治(武雄アジア大学非常勤講師) 法学博士。一般企業に勤務する、インディペンデント研究者。ジェンダー、公訴、紛争、人権などフィールドワークに基づいて中国法政に関する現代的な諸課題を研究している。	中国の一帯一路政策 2013年に習近平国家主席が提唱した一帯一路(One Belt, One Road)とは、ユーラシアを包み込む広域経済圏であり、その実態について法学的な立場から解説する。

※この特別講座は一般財団法人ユーラシア財団の助成を受けて開講しています。

